

「インフルエンザ・肺炎球菌予防接種」について

<インフルエンザ予防接種>

インフルエンザワクチンの最も大きな効果重症化を予防することです。発病後、多くの方は1週間程度で回復しますが、中には肺炎や脳症等の重い合併症が現れ、入院治療を必要とする方や死亡される方もいます。特に基礎疾患のある方や高齢の方では重症化する可能性が高いと考えられています。

インフルエンザは例年12月～4月頃に流行するため、

12月中旬までにワクチン接種を終えることが望ましいと考えられます。

対象の方には予防接種のお知らせが郵送されますのでかかりつけ医とご相談下さい。



ワクチンの効果は5か月程度！

積極的に摂取して感染予防を行いましょう！



<肺炎球菌ワクチン>

高齢者の死亡原因の第3位である肺炎は、その多くが『肺炎球菌』により引き起こされるものです。この予防に有効な『肺炎球菌ワクチン』を接種しておくこと、インフルエンザ等にかかった場合も、症状が重症化しないと言われています。肺炎球菌ワクチンは、接種後5年間程度効果が持続します。

※接種を希望される方は、

ワクチンの効果や副反応等について十分に理解したうえで医師と相談し、接種してください。

対象者(令和4年度2022年4月1日から2023年3月31日まで)

- ・令和4年度中に
65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳の各年齢になる方
- ・接種日に60歳から65歳未満の方で、心臓、腎臓、呼吸器の機能、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障がいがある方(身体障がい者手帳1級相当)

※但し、すでに「ニューモバックス NP(23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン)」を接種したことがある方は、対象とはなりません



原則として、新型コロナワクチンとその他のワクチンの接種間隔は互いに片方のワクチンを受けてから2週間後に接種できます。

